

学 年	高校 2 年	必修・選択の別	選択
教科名	任意設置科目	単 位 数	2 単位
科目名	Sustainable Society Research	担 当 者	西田喜久夫、佐藤友亮
講 座	1 講座		

科目のねらい（目標）

1年生で身につけたSDGsをはじめとするグローバルな社会課題に対する知識を基礎とし、さらにその解決に向けた国際的な取り組みや先進国・地域の政策についての知識、課題解決のための思考力、リサーチやコミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルを発展させていくことを目的とした講座である。具体的には、3年次におこなわれる予定である国際会議に向けて、必要な素養を身に付け、国内外の連携校や大学、国際機関、企業との協業によって課題解決に対する提言ができるだけの基礎力獲得を目指す。また本校が掲げる「持続可能な都市の構築」のため、京田辺市と連携し、具体的実践を行い、身近な問題について問題解決の方策を探る。

「正解のない問題」に対して、異なる教科の教員が担当するアクティブ・ラーニングを取り入れた授業によって幅広い視野を養い、また同志社大学との連携、国内外の連携校の生徒との授業、国内外の専門家の特別授業や質疑等を通して、様々な知識や価値観との出会いを楽しみ、社会課題の解決に前向きに取り組むことのできるグローバル・リーダーの育成を目標とする。

学習の進め方

以下の3つの内容を中心に進める。

- 【1】国内外の「まちづくり」の事例に対し見識を深める。
レポートや論文作成、それに伴うリサーチスキルを磨く。
- 【2】今の「まち」が抱える課題について見識を深める。それと同時にフィールドワークなどを通して京田辺市が抱える課題を知り、その解決に向け調査をする。
- 【3】国際会議に向けたプレゼンテーションスキルを磨き、様々な事例や実地調査を基に政策提言をおこなう。

生徒の学習上の留意点

- ・知識を得ることはもちろんのことであるが、知識を体系的に理解し、世界、日本、地域というそれぞれのレベルの課題に対して、自らの思考によって問題解決の検討をする姿勢を持つこと。
- ・まずは、個人の知識獲得と状況の理解を必要とする。その上で、グループによる検討を経て、理解度を高める。（いわゆる、単なる調べ学習にならないようにすること）
- ・また、単なる思いつきではなく、論理に基づいた調査や政策を提言する姿勢を常に持つこと。

評価方法

学期ごとに、評価に関する説明を必ず実施する。そのうえで主に基本的な知識、授業に臨む積極性、テーマに対する調査・思考力、をはかるための提出物に対し評価を行う。

使用教材

テーマによって、担当者が随時準備する。

授業計画

学期	授業内容	各単元のねらい
1	(1) レポートや論文作成、リサーチのためのレクチャー (2) 大学生などの体験を聞き京田辺について理解を深める	基礎的なアカデミックスキルの獲得。読書を通じた、もの見方や知識の獲得。 近いようで遠い京田辺市に対して、大学生らがおこなったアプローチについて知り、考える素地を養う。
2	(1) 今の「まち」が抱える問題について知る。 (2) 京田辺市に行き、その課題について調査する。	SDGs カードゲームなどを通して今の「まち」が抱える一般的な問題を知り、それを見る視点を獲得する。 実際のフィールドワークを通し、課題発見能力や課題解決能力を養う。
3	(1) プレゼンテーションスキル伸長のためのレクチャー、実際の発表や政策提言	国際会議に向けたプレゼンテーションスキルを磨き、様々な事例や実地調査を基に、京田辺市に対し政策提言をおこなう。

